

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18446

研究課題名（和文）Long-term careアウトカム質指標の開発：施設・在宅横断型指標の構築

研究課題名（英文）Development of long-term care quality indicators: construction of indicators across facilities and home care settings

研究代表者

五十嵐 歩（IGARASHI, Ayumi）

東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・准教授

研究者番号：20595011

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、在宅・施設・療養病床において共通して使うことのできる長期ケアの質指標を開発し、表面的妥当性、実施可能性、評価者間信頼性の検討を行った。在宅領域の訪問看護師らを対象に開発した質指標は、介護施設、慢性期病院等の長期療養施設に居住する高齢者にとっても活用可能な指標であることが示唆された。一方、心理社会的側面および家族のウェルビーイング等に関する指標の実施可能性と評価者間信頼性に課題があることが示された。今後、質指標の活用に向けた課題とその解決策について検討を重ねることで、長期療養施設における高齢者ケアの質の向上に寄与する可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究において、在宅・施設・療養病床において共通して使うことのできる長期ケアの質指標が開発された。本指標ではプロセス・アウトカムの両側面を同時に評価できるため、アウトカムを改善させる対策としてプロセスの見直しが可能であり、またその取り組みの効果をデータにより検証することができる。本研究を多様な長期ケアの場で活用することにより、継続性の担保された質の高いケア提供につながることを期待される。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed quality indicators for long-term care (LTC-QIs) that can be commonly used in home care, nursing home, and LTC hospital settings. We examined their face validity, feasibility, and inter-rater reliability. The results suggested that the LTC-QIs, which were developed for home care settings, could also be used for older adults residing in nursing homes and LTC hospitals. However, there were issues with the feasibility and inter-rater reliability of the indicators related to psychosocial aspects and family well-being. Further studies on these issues and potential solutions may contribute to improving the quality of care for older adults in various LTC settings.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：長期ケアの質指標 アウトカム プロセス 在宅ケア 介護施設 地域包括ケアシステム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢者が安心・安楽に生活を続けるためには、日々の生活を支える長期ケアの確保とその質の保証が必須である。質保証には正確で客観的な質評価が求められるが、本邦では長期ケアの質評価のシステム構築ははまだ進んでいない。さらに、地域包括ケアシステムにおいて高齢者は在宅・施設・療養病床など多様な居住形態で長期ケアを受けており、身体状況に応じ居住場所を移動している。今後それらを横断して使用できるアウトカム・プロセス質指標が定期的に測定できる仕組みが求められる。

2. 研究の目的

本研究は、在宅・施設・療養病床において共通して使うことのできる、長期ケアの質指標を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 質指標項目の作成

文献検討、エキスパートパネルにより長期ケアの質指標の項目案を作成した。

(2) 質指標の実施可能性・信頼性の検討

在宅・介護施設・療養病床で介護サービスを受けている要介護高齢者を対象に、長期ケアの質指標を用いた評価を行い、実施可能性および評価者間信頼性を検討した。まず、在宅における評価を実施し、質指標項目の精練を行った。続いて、在宅において実施可能性・評価者間信頼性が確認された指標が介護施設・療養病床において適用可能性の評価を行った。

本報告書では、介護施設・療養病床における評価の概要と調査結果について示す。

調査 1：VENUS 指標の実施可能性・評価者間信頼性の検討

長期療養施設のうち 介護施設 (有料老人ホーム・特別老人ホーム) と 慢性期病院 (医療療養病床・介護医療院) に入居/入院している 75 歳以上の高齢者に対し、看護職と介護職による評価を検討した。

まず、調査協力の得られた介護施設 (以下、施設) と慢性期病院 (以下、病院) の管理者もしくは担当者、評価対象者 (入居者もしくは患者) と調査対象者 (看護職と介護職) の選定を依頼した。施設では、看護職と介護職 1 名ずつでペアとなるように、病院では、看護職 2 名と介護職 1 名でトリオとなるように看護管理者に選定を依頼した。次に、個々の調査対象者に本調査の説明文書と同意書を郵送し、同意書の返送をもって本調査に同意したと見なし、Web 調査システムに登録した。調査に際しては、評価対象者に関する情報および長期ケアの質指標を、看護職と介護職がそれぞれ独立して Web 調査システムに入力するよう依頼した。調査は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会 (審査番号 2019063NI-(5)) の承認を受けて実施した。分析は、施設の看護職と介護職、病院の看護職と介護職、病院の看護職と看護職の評価者間信頼性を検討した。病院の看護職と介護職の看護職は、看護職 2 名のうち経験年数が長い看護職を選定してペアを作成し、分析に用いた。

各アウトカムの調査項目およびアウトカム指標から定義されたネガティブイベントの発生の有無について、評価者間の回答の単純一致率を算出した。「わからない」の回答を含む完全一致率と、「わからない」の回答を欠損とみなした発生割合を算出した。

調査 2：VENUS 質指標の活用可能性の検討

調査 1 に参加した 施設と 病院の看護職と介護職を対象にインタビューを行い、長期療養施設における長期ケアの質指標の表面的妥当性と活用可能性について検討した。調査 1 に参加した看護職と介護職のうち、同意が得られた場合に日程調整をしてインタビューを実施した。本調査は、オンラインシステム (Zoom) による個別もしくはペアでの半構造化インタビューである。インタビューの所要時間は、約 30 分/回とし勤務時間外に行った。インタビューの内容は、

調査対象者の同意を得た上で録音・録画した。

分析は、インタビュー内容を逐語録にし「長期ケアの質指標の妥当性と活用」に関する内容ごとに文章を区切り、それぞれの内容をまとめるコードをつけ、コードをその類似性に従ってグループ化した。

4. 研究成果

(1) 質指標項目の作成

文献検討およびエキスパートパネルにより、長期ケアの質を多様な側面から包括的に評価する指標 (Visualizing Effectiveness of Nursing & Long-term Care : VENUS 指標) が作成された。VENUS 指標は 8 ドメイン、19 項目より構成され、各項目にアウトカム指標およびプロセス指標が含まれる(表 1)。

(2) 質指標の実施可能性・信頼性の検討(表 2)

調査 1 : VENUS 指標の実施可能性・評価者間信頼性の検討(介護施設・療養病床)

調査対象者は、介護施設の看護職 3 名と介護職 3 名、慢性期病院の看護職 20 名と介護職 10 名であった。介護施設の看護職は、全員が看護師かつ女性であり、年代は 40 代が 3 名、50 代が 1 名であった。看護職経験年数は平均 24 年 (範囲 : 20 ~ 28 年) であった。介護職は、全員が介護福祉士であり、3 名中 2 名が女性であった。年代は 20 代、30 代、40 代それぞれ 1 名ずつであった。介護職経験年数は平均 13.3 年 (範囲 : 6 ~ 22 年) であった。

慢性期病院の看護職は、看護師 18 名、准看護師 2 名であった。女性が 18 名 (90%) であり、平均年齢は 35.5 歳、看護職経験年数の平均は 12.8 歳だった。介護職は、介護福祉士資格を有する者が 5 名 (50%) であり、女性が 9 名 (90%) であった。平均年齢は 30.9 歳であり、介護職経験年数は平均 6.5 年だった。

慢性期病院の看護職と介護職の欠損割合は平均 16.0%、一致率は平均 69.0% だった。6 項目において欠損は発生していなかったが、1) 社会的交流の確保 (25%)、2) 希望する生き方の実現 (55%)、3) 希望するケアの実現 (30%)、17) 生活に支障ない睡眠の確保 (30%)、18) ところの安寧の追求 (25%)、19) 家族のウェルビーイングの追及 (92.5%) の 6 項目で、欠損割合が 20% を超えていた。一致率は、3) 希望するケアの実現 (30%)、13) 排泄活動の維持 (45%) の 2 項目において、50% に満たなかった (表 2)。

介護施設における結果および慢性期病院の看護師・看護師ペアの結果は、表 2 の通りである。

調査 2 : VENUS 質指標の活用可能性の検討

調査対象者は、介護施設の看護師 3 名・介護職 2 名 (計 5 名) と慢性期病院の看護師 11 名と介護職 7 名 (計 18 名) であった。

長期療養施設における長期ケアの質指標の表面的妥当性について、対象者の語りに基づき表 3 にまとめた。

以上の結果より、在宅領域の訪問看護師らを対象に開発した長期ケアの質指標 (VENUS 指標) は、介護施設、慢性期病院等の長期療養施設の高齢者にとっても必要かつ妥当な項目であり、長期療養施設において活用可能な指標であることが示唆された。一方、心理社会的な項目や家族に関するアウトカム指標の把握が困難であることや評価者間の一致に課題があることが示された。

今後は、インタビュー調査で得られたデータの詳細な分析により、質指標の活用に向けた課題とその解決策について検討を重ねることで、長期療養施設における高齢者ケアの質の向上に寄与する可能性がある。

表1. VENUS 指標の構造

質指標 領域	質指標 項目	アウトカム 指標	プロセス指標			
			アセスメント		ケア	
			全対象	リスク・問題 のある対象	全対象	リスク・問題 のある対象
1. 尊厳の追求	1) 社会的交流の確保	7	4		3	
	2) 希望する生き方の実現	1	4		6	
	3) 希望するケアの実現	1	5		5	
	4) 活動制限の撤廃	1		3	2	
2. 苦痛の最小化	5) 疾患悪化予防	5	7		8	
	6) 感染症（尿路）予防	1	4		3	
	7) 感染症（呼吸器）予防	1	5	2	6	
	8) 褥瘡予防	2	5	1	5	3
	9) 呼吸困難への対処	2	1	6	5	
3. 食生活の維持	11) 栄養状態の保持	3	8		2	3
	12) 脱水の予防	1	4		2	
4. 排泄活動の維持	13) 排泄活動の維持	3	3	7	9	
5. 身体活動の維持	14) 転倒転落による外傷の 予防	1	6		8	
	15) 日常的な活動の維持	6			7	
	16) 寝床以外での活動の維持	3	3		3	
6. 睡眠の確保	17) 生活に支障ない睡眠の 確保	1	6		3	
7. こころの安寧	18) こころの安寧の追求	1	5		5	
8. 家族のウェルビー イングの追求	19) 家族のウェルビーイング の追求	2	7		3	
設問数の合計		45	78	23	67	29

表2. 実施可能性・評価者間信頼性の検討

	介護施設		慢性期病院			
	看護職・介護職のペア		看護職・介護職のペア		看護職・看護職のペア	
	欠損 (%)	一致率 (%)	欠損 (%)	一致率 (%)	欠損 (%)	一致率 (%)
1) 社会的交流の確保	9.5	62.5	25.0	55	20.7	57.5
2) 希望する生き方の実現	0.0	66.7	55.0	50	50.0	80.0
3) 希望するケアの実現	16.7	33.3	30.0	30	10.0	30.0
4) 活動制限の撤廃	0.0	100	0.0	100	0.0	100
5) 疾患悪化予防	0.0	83.3	2.5	70	0.0	75.0
6) 感染症（尿路）予防	0.0	100	0.0	90	0.0	90.0
7) 感染症（呼吸器）予防	0.0	100	10.0	90	0.0	90.0
8) 褥瘡予防	0.0	83.3	2.5	80	0.0	85.0
9) 呼吸困難への対処	0.0	66.7	0.0	95	0.0	80.0
10) 疼痛への対処	0.0	66.7	17.5	65	15.0	75.0
11) 栄養状態の保持	0.0	88.9	3.3	70	0.0	80.0
12) 脱水の予防	0.0	100	5.0	90	0.0	100
13) 排泄活動の維持	0.0	50	5.0	45	5.0	40.0
14) 転倒転落による外傷の 予防	0.0	100	0.0	90	0.0	90.0
15) 日常的な活動の維持	0.0	27.8	0.0	55	0.0	38.3
16) 寝床以外での活動の維持	4.2	66.7	0.0	70	0.0	66.7
17) 生活に支障ない睡眠の確保	0.0	33.3	30.0	60	20.0	50.0
18) こころの安寧	0.0	66.7	25.0	50	10.0	50.0
19) 家族のウェルビーイングの追 及	50.0	44.4	92.5	56.7	95.0	60.0
平均	4.2	70.5	16.0	69.0	11.9	70.4

慢性期病院の看護職と介護職のペアを作成するにあたり、看護職は経験年数の長い看護職を選定しペアを作成した。

表3. インタビューによる VENUS 指標の表面妥当性の評価

全体的な項目に関する評価

対象者は、長期ケアの質指標の項目は、長期療養施設の高齢者においても〔必要な項目だと思ふ〕〔全体的に項目は〕合っていると思ふと語り、質指標の項目・内容は妥当であると考えられた。

評価が難しい項目

a. 「Domain1.尊厳の追及 項目1) 社会的交流の確保」

いずれの対象者でも、特に評価が難しい項目として「Domain1.尊厳の追及 項目1) 社会的交流の確保」を挙げた。現時点では COVID-19 の感染症拡大に伴う面会制限により〔家族に会う機会がない〕〔他者と交流できない〕と語り、感染症が収束すれば評価できると認識されていた。

b. 「Domain1.尊厳の追及 2) 3) 希望する生き方/ケアの実現」

対象者の中には、評価が難しい項目として「Domain1.尊厳の追及 項目2) 3) 希望する生き方/ケアの実現」を挙げた者がいた。施設や病院では、高齢者の病状の管理を優先しなければならず、本人の希望を聞くことを躊躇っている様子が伺えた。また自らの意思を表出することができない高齢者も少なくないため、対象者には高齢者本人の意思を確認することが困難な場合があると認識されていた。

回答方法について

a. 所要時間や情報収集

対象者が質指標の評価およびシステム入力に要した時間は 30～90 分と幅があったが、想定内であったと捉えられていた。ほとんどの対象者は、事前にカルテからの情報収集や他のスタッフへの確認といった準備をしており、その際、評価ガイドを活用していた。

b. 回答に伴う時間的・心理的負担

対象者の中には、今後、複数の高齢者に対し長期ケアの質指標を用いて評価することになった場合、自分たちの時間的・心理的負担が増すのではないかと懸念する者がいた。施設や病院では、限られた人員で複数の高齢者のケアをしなければならず、業務量の多さが、既に大きな負担となっている現状が語られた。一方で、質指標の評価に伴う負担を軽減するため、複数名で項目を分けて評価する等の工夫ができると考えている様子も伺えた。

c. 施設における他の指標との位置付け

施設では、2021 年度より科学的介護情報システム (Long-term care Information system For Evidence: LIFE) の運用が開始されている。施設の対象者からは、複数の指標を導入することによるスタッフの負担を危惧する語りがあり、配慮が必要であると考えられた。

評価者間の一致率が低い項目とその理由

a. 「Domain2.苦痛の最小化」

評価者間の一致率が低い理由：看護職と介護職の役割の違い

対象者は、評価者間の一致率が低い項目として「Domain2.苦痛の最小化」を挙げた。カルテなどから収集できる情報以外に、日常的なケアを通じてアセスメントする項目については評価者が有している情報により評価の内容に違いが生じることがあると認識されていた。施設と病院共に、看護職と介護職の役割の違いが評価に影響している様子が伺えた。

b. 評価者間の一致率が低い理由：言葉の定義や言葉の受け止め方の違い

対象者の中には、質指標で使用されている言葉の定義や言葉の受け止め方により評価に違いが生じると考える者もいた。特に、看護職と介護職が協働してケアをする施設・病院では、それぞれの職種により言葉の意味・内容の捉え方が異なる可能性があり、そのことが評価者間の一致率の低下につながる可能性が考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Lepore Michael、Edvardsson David、Meyer Julienne、Igarashi Ayumi	4. 巻 1
2. 論文標題 How long-term care quality assurance measures address dementia in Australia, England, Japan, and the United States	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Aging and Health Research	6. 最初と最後の頁 100013 ~ 100013
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ahr.2021.100013	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Igarashi Ayumi、Eltaybani Sameh、Takaoka Manami、Noguchi-Watanabe Maiko、Yamamoto-Mitani Noriko	4. 巻 6
2. 論文標題 Quality Assurance in Long-Term Care and Development of Quality Indicators in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gerontology and Geriatric Medicine	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/2333721420975320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Fukui Chie、Igarashi Ayumi、Noguchi Watanabe Maiko、Sakka Mariko、Naruse Takashi、Kitamura Satomi、Inagaki Asa、Takaoka Manami、Kobayashi Hiromi、Yasaka Taisuke、Yamamoto Mitani Noriko	4. 巻 21
2. 論文標題 Development of quality indicators for evaluating the quality of long term care	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 370 ~ 371
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14138	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Eltaybani Sameh、Kitamura Satomi、Fukui Chie、Igarashi Ayumi、Sakka Mariko、Noguchi Watanabe Maiko、Takaoka Manami、Inagaki Asa、Yasaka Taisuke、Kobayashi Hiromi、Yamamoto Mitani Noriko	4. 巻 23
2. 論文標題 Toward developing care outcome quality indicators for home care for older people: A prospective cohort study in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 383 ~ 394
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.14578	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 五十嵐歩
2. 発表標題 指定インフォメーション・エクステンジ3 地域力向上に向けた看護管理者の連携と情報利活用 Long Term Care の見える化－VENUSプロジェクト
3. 学会等名 第23回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Igarashi A.
2. 発表標題 Long-term Care System and Development of Quality Indicators for Long-term Care in Japan, Sep 20-21, 2019: Chengdu, China. Ayumi Igarashi. Research in the Community-based Integrated Care System in Japan: Building Collaborative Relationships with Convenience Stores. The 4th West China International Nursing Conference
3. 学会等名 The 4th West China International Nursing Conference, China (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Igarashi A.
2. 発表標題 Development of quality indicators in long-term care in Japan: Aiming to construct the high-level community-based integrated care system
3. 学会等名 BK International Symposium, Korea
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柏木聖代, 長江弘子, 北村智美
2. 発表標題 パネルディスカッション 3 訪問看護の質評価－訪問看護実践と成果をいかに可視化するか－
3. 学会等名 第9回日本在宅看護学学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 飯島 勝矢、山本 則子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 208
3. 書名 ケアシステム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 則子 (YAMAMOTO-MITANI Noriko) (90280924)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・教授 (12601)	
研究分担者	福井 小紀子 (FUKUI Sakiko) (40336532)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	
研究分担者	池崎 澄江 (IKEZAKI Sumie) (60445202)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授 (12501)	
研究分担者	柏木 聖代 (KASHIWAGI Masayo) (80328088)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	
研究分担者	成瀬 昂 (NARUSE Takashi) (90633173)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・特任准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高岡 茉奈美 (TAKAOKA Manami) (60967446)	東京大学・大学院医学系研究科・特任研究員 (12601)	
研究協力者	齋藤 弓子 (SAITO Yumiko)	東京大学・医学系研究科・客員研究員 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関